

演劇ファミリーMyuオリジナル住民ミュージカル

Twinkle★Twinkle

* 人間界と宇宙を繋ぐノーザンコースに住む
星の精、その名は“トゥインクル”。
星の日に人間界から届く短冊を、天の川に流します。
うまく叶え星に辿りついたら、願いは叶い人間は幸せになれるという。
トゥインクル見習い中のアルタとベツカが
人間界で起こす驚きと感動のストーリー。
* 年に一度逢える織姫と彦星と一緒に、あなたの願いもきつと叶う。

5月3日(日)
10:00~
整理券受付開始!!

~天の川にかけの願い~

2015年7月5日(日)

① 13:00開場/13:30開演 (3歳未満入場不可)

② 17:30開場/18:00開演 (未就学児入場不可)

四季文化館(みの〜れ)

◇入場無料(要入場整理券)

◇託児室(有料300円/人・要事前申込)

5月3日(日)~受付開始!! TEL 0299-48-4466

★★ 演劇ファミリーMyuよりメッセージ

Myu誕生から12年が経ち、当時幼かった子どもたちも、今では何よりも頼もしくなり、みんなの憧れの存在となっています。そんな若い世代が中心となり立ち上げた「Myu七タプロジェクト!」みの〜れで育った子どもたちが、これからの子どもたちに届けたいメッセージ!そしてありったけの感謝を込めて、堂々と魅せる成長の証となる舞台。歌にダンスに芝居と見どころ満載です。家族、友人、恋人、どなたでも楽しんでもらえるMyuオリジナルミュージカルをどうぞご期待ください。<演劇ファミリーMyu>

★★

みのり太鼓 再起に向けて...

みのり太鼓公演「熱く打て」

稽古場と和太鼓の焼失、悲しみを乗り越えて

みのり太鼓にとって再起となる自主公演「熱く打て」が開催されました。みのり太鼓は昨年秋に火災で稽古場と和太鼓等を焼失してしまいました。数々の支援を受け、今回の公演を迎えました。「三宅」では一糸乱れぬバチさばき、「Feel」では一転してコミカルな動き、「雲流る」ではやさらかな篠笛、メンバー総出で「喜楽」でラストを締めてくれました。アンコールも含め全13曲。超満員のお客様からは惜しめない拍手が贈られていました。篠原会長は「支援していただいた皆さま、ありがとうございます。これからもみのり太鼓は一致団結してがんばってまいります」と挨拶。みのり太鼓の再出発にふさわしい公演となりました。<みのんぱ編集局 酒井 和美>



2015.3.22 Minole

REPORT

住民と商工会&みの〜れが共創する春の一大イベント!!

小美玉さくらフェスティバル2015

満開の桜の下、『小美玉さくらフェスティバル2015』も例年と同じく、大盛況に幕を閉じました。すべての企画が大盛況。風の広場のしゃぼん玉体験コーナーで、たくさんのお子様に囲まれていた実行委員長の伊藤勇太さん。「夢がみの〜れをテーマにしたんです。結果、各部門からしゃぼん玉、体験型アトラクション、願いをかくアート企画やミニライブなど、たくさんのお子さんの笑顔が嬉しかったです。想像以上に楽しんでもらったようでうれしく思います」と話してくれました。開会前には、降り出した雨さえも吹き飛ばした、若い委員さんたちのエネルギーを感じるフェスティバルとなりました。<みのんぱ編集局 野手 利江>



2015.4.4 Minole

REPORT

アピオスの看板企画!おかげさまで今年も超満員!!

第6回小美玉発!スター☆なりきり歌謡ショー

アピオスの大ホールを満員に埋め尽くし、大歓声が湧き上がる中、今回で6回目となるスター☆なりきり歌謡ショーが盛大に行われました。客席からは、出演者の各応援団が手作りの応援グッズを使い、ステージに大きな声援を送ります。その応援を力に15組の出演者は、観客のみなさんを存分に魅了してくれました。気持ち良さそうにマイクを手に歌う姿はまるでプロ。ドキドキしながらもステージを終えた後は「楽しかったあ…最高だった!!」と満足そうな笑顔で喜びを伝えてくれました。また次回行われるスター☆なりきり歌謡ショーへの期待が高まるのを感じられました。

<小川文化センター活性化委員会 田村 智子>



2015.3.22 Apios

△グランプリ受賞「千の風になつて」呂 暁キンさん(小美玉市)

アピオス

文化が薫るまちづくりを進める小美玉市。
劇場から飛び出して、文化を発信している
「ひともの・ところ」等を紹介して行きます。

まるごと文化情報局

vol.02 地域に根ざした文化を発信中!! 堅倉郵便局

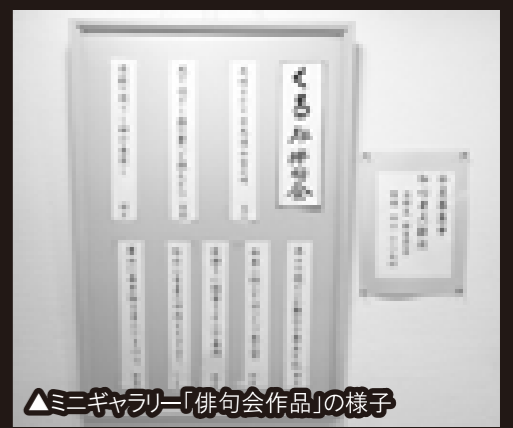
小美玉市堅倉にある堅倉郵便局にはミニギャラリーがあります。柔らかな日差しが差し込むギャラリーには、現在、押し花・切り絵・俳句が展示され、ポケの盆栽が彩りを添えています。「平成3年に新しく建て替えた時に、こういうスペースがあって地域の人たちに飾って喜んでもらえたらと思って、オーナーさんが造ってくれました。作品を通してコミュニケーションが取れるようになり、季節の花を届けてくれたり、声をかけてもらえるようになりました。お散歩がてらに観に来ていただけたらいいなと思います」と局長さんは話します。心にゆとりが生まれホッとする郵便局です。<みのんぱ編集局 藤田 佐知子>



▲ミニギャラリー「押し花絵作品」の様子



△「押し花絵作品」と「切り絵作品」の様子



△ミニギャラリー「俳句会作品」の様子